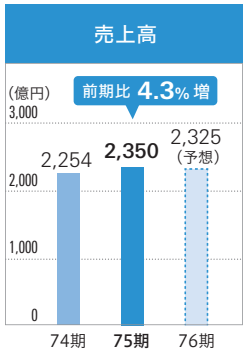
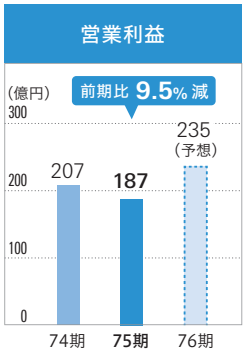
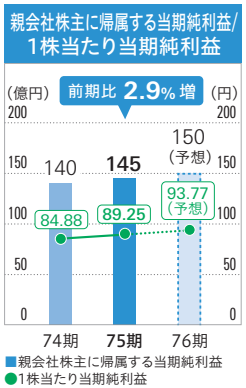
# 連結決算ハイライト

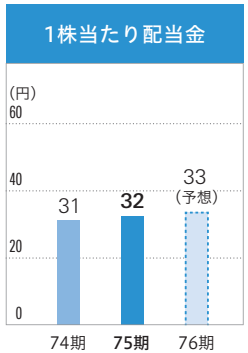
## 連結決算の概況

当期は、国内では、各医療機関はタスクシフトや業務の効率化に取り組む一方、物価や賃金の上昇により経常赤字の割合が増加するなど、厳しい経営環境が続きました。海外では、米国での公的医療保険の予算削減案や中国での景気減速等はあるものの、先進国、新興国ともに医療機器の需要は総じて堅調に推移しました。国内外ともに、医療機関における医療の質向上と効率化が急務であり、データヘルス、遠隔医療、AI、ICTの活用など医療DXが推進されました。当期の売上高は前期比4.3%増の2,350億9千9百万円となりました。利益面では、国内での減収に加え、賃上げ対応や研究開発投資、M&Aおよび設備投資に伴う償却費の増加により、販管費が増加したことから、営業利益は前期比9.5%減の187億4千5百万円となりました。一方、経常利益は、為替差損益が差益に転じたことから、前期比10.7%増の225億4千4百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、早期割増退職金等を特別損失に計上した結果、前期比2.9%増の145億1千3百万円となりました。



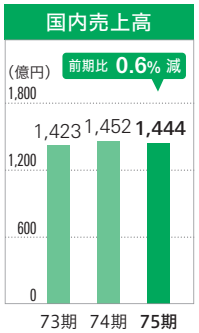



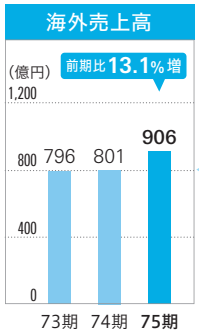



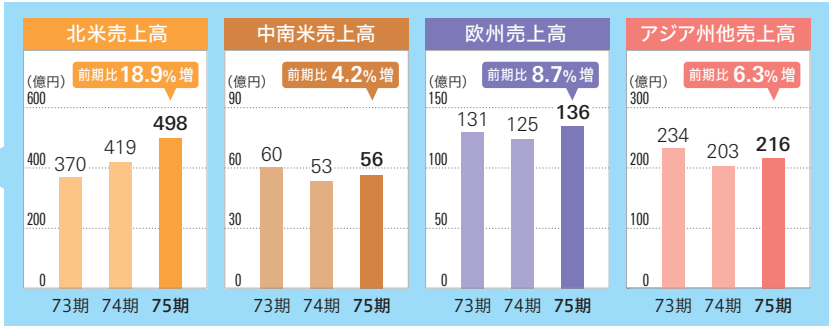



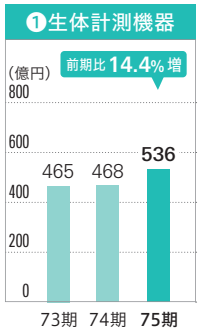
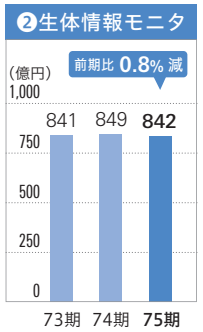
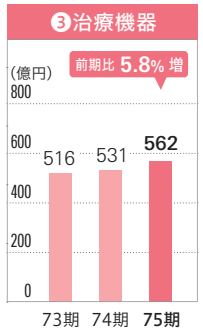
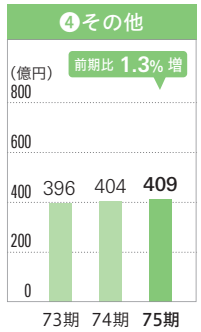

## 地域別の概況

国内売上高は前期比0.6%減の1,444億6百万円となりました。消耗品・サービス事業の強化に注力したものの、現地仕入品の抑制が進み、導入品であるアボット製品も減少したことから、減収となりました。
海外売上高は前期比13.1%増の906億9千3百万円となりました。全ての地域で好調に推移し、二桁成長となりました。為替およびアドテック社連結の影響を除いても好調でした。北米では、脳神経系群、人工呼吸器、AEDが大幅増収となり、二桁成長となりました。生体情報モニタは好調だった前期実績を下回りました。中南米では、パラグアイ、ペルーを中心に堅調に推移しました。欧州では、トルコ、イギリス、イタリアを中心に好調に推移しました。アジア州他では、東南アジア、インド、中近東・アフリカで好調に推移しました。




## 商品群別の概況（連結）

| | ❶生体計測機器 | ❷生体情報モニタ | ❸治療機器 | ❹その他 |
|---|---|---|---|---|
| 国内： | 診断情報システムが二桁成長となり、脳神経系群も好調に推移しました。一方、心電計群、心臓カテーテル検査装置群は前期実績を下回りました。 | 医用テレメータ、送信機が前期実績を下回りました。一方、臨床情報システムは二桁成長となり、ベッドサイドモニタも堅調に推移しました。 | アブレーションカテーテル、AED、除細動器が前期実績を下回りました。一方、人工呼吸器は好調に推移しました。 | 医療機器の設置工事・保守サービスが好調に推移し、検体検査装置・試薬も堅調でした。一方、現地仕入品は減収となりました。 |
| 海外： | アドテック社を含む脳神経系群がけん引し、大幅増収となりました。心電計群も前期実績を上回りました。 | アジア州他で二桁成長となった一方、北米、欧州では好調だった前期実績を下回りました。 | 人工呼吸器が北米、欧州、中南米で大幅増収となり、アジア州他でも好調でした。除細動器は二桁成長、AEDも好調に推移しました。 | 欧州、アジア州他を中心に検体検査装置・試薬が減収となりました。 |